

## 新しい「エネルギー基本計画」の閣議決定について

2014年4月11日  
電気事業連合会  
会長 八木 誠

本日、新しい「エネルギー基本計画」が閣議決定された。

本計画では、「S + 3 E」の観点から、特定の電源や燃料源に過度に依存しない、バランスのとれた供給体制を構築することの重要性が示された。その上で、原子力発電を「エネルギー需給構造の安定性に寄与する重要なベースロード電源」と位置付け、原子燃料サイクルについても引き続き「推進する」ことが明確化された。

こうした方針が示されたことは、大変意義があるものと受け止めており、本計画を国の基幹政策として着実に推進していただきたい。

なお、本計画でも、「事業環境の在り方について検討を行う」とされているとおり、電力システム改革によって競争が進展した環境下においても、民間が原子力を担っていくために、新たな国策民営の在り方について検討していただきたい。

私どもとしても、安全の確保を大前提に、原子力発電を活用していくことを中心として、国のエネルギー政策に貢献してまいる所存である。

以 上